

## 一牧師室より一

日本の教会は伝統的に、週の半ばに聖書研究・祈禱会を守ってきた。それは日本にとってキリスト教は開拓地であるから聖書の学びを重視したからであろう。そして学んだみ言葉に導かれ祈禱を捧げてきた。私もこの聖書研究・祈禱会をしない教会を経験したことがなかった。港南台教会でも赴任以来続けていた。しかし参加者が少なく固定化したので、礼拝後、数名の方が祈る形に変えた。ところが、礼拝後は時間的に余裕がないので取り止め、現在は第一土曜日の夜7時半から祈禱会を持っている。私は旧約聖書の始めから順次祈りに関する聖書をピックアップし短く奨励している。祈りは神との対話であり、実に様々である。神の臨在を求める祈り・懺悔・感謝・賛美・祈願・取り成し・応答・服従そして不信と嘆きなど、聖書の民の神との関わりは多様で、そのエネルギーに圧倒させられる。奨励の後、先月の集会の感謝、今月持たれる集会の導き、そして祈っていただきたい教会内

の事、時の問題などを申し上げ、又祈って欲しいことを参加者から聞き、その後それらの主題に添って皆で祈りを合わせている。クリスチャンにとって神を近くに体験する祈りは、信仰の根幹で命の源泉である。イエス・キリストは何か事をなさる場合、必ず一人退いて祈られた。又あの凄じい生と死を支えたものは祈りであったことを福音書は伝えている。最近、祈りが少なくなっているという批判も聞くが、私は祈りを何より大切に考えている。礼拝中での祈りは「牧会祈禱」と言われ、牧師が祈るものであるが、私たちの教会では司式者が祈っている。献金祈禱も多くの教会では司式者が祈っているが、私たちの教会では当番の人が祈っている。祈りは上手下手ではなく神の臨在を知って率直に語りかけることである。祈る教会が成長する。祈りを学び、自分のこと、教会のこと、世界のことを祈る。そこで神の祝福と顧みを確認し喜ぶ。私は第一土曜日の夜大勢の方が参加し、そのような祈禱会になることを望んでいる。

## 週 報

1993年11月28日 降誕前第4主日

アドベント（待降節）に入る

巻14 35号

### 1993年度教会主題

「キリストが私たちの内に形づくられる」

聖句 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。

使徒言行録 16章31節～32節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. 教会の組織を再検討し、キリストの体を作る。
  3. 家族こぞって主イエスを賛美する。

日本キリスト教団

## 横浜港南台教会

〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323 振替 横浜 9-13994

牧師 秋吉 隆雄

牧師宅 電話 045-833-6616